



2018(平成30)年8月号

孟蘭盆会

今年は、例年よりも大幅に早い梅雨明けで、毎日猛暑が続いております。全国的に見ても、熱中症により体調を崩す方が多いようです。皆さまも十分ご注意ください。

また、平成30年7月豪雨により、西日本を中心に甚大な被害を受けました。被災された方々におかれましては、衷心よりお見舞い申しあげます。この度、築地本願寺をはじめ当会館におきましては、被災された皆さまの一日も早い復興を願い、義援金を募ることにいたしました。詳細については、築地本願寺のホームページに掲載されております。どうぞ、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

今月(8月12日)は、当会館におきまして孟蘭盆会(うらぼんえ)法要並びに永代経法要をお勤めいたします。お盆は、伝統的な日本の仏事として古くからお勤めされていきます。私たち僧侶としては、一年の中で一番忙しい時期といえます。

さて、子どもの頃、「夏」といえばやはり夏休みでした。海やプールで泳いだり、セミを捕まえたり、親戚の家に遊びに行ったりと、宿題そっちのけで大いに遊んでいました。その中でも夢中になったのは、セミ捕りでした。ね境内の木に止まって鳴いているアブラゼミやクマゼミにそっと近づき、虫捕り網で捕まえた時は、何とも言えない爽快感でした。

やがて夏休みが終わりに近づき、ツクツクボウシが鳴き始めると、夏の終わりに寂しさを感じ、まだ終わっていない宿題を慌てて済ませるとい、お恥ずかしいものでした。境内にある桜の木で、セミが元氣よく鳴いているのを聞くと、子どもの頃の記憶が蘇ってきます。

浄土真宗の七高僧の一人である、中国の曇鸞大師(どんらんたいし)は、『往生論註』というお書物の中に、「蟪蛄(けいこ) 春秋を知らず、伊虫(いちちゅう) あに朱陽(しゅよう)の節を知らんや。知るものこれをいふなり。」

という言葉をお示しになりました。

「蟪蛄」とはセミのことです。セミは、土の中で生まれ、幼虫として数年過ごします。そして、夏が来て成虫になると土から外に出て、命ある限り鳴き続け、僅か一週間ほどで死んでいきます。ですから、夏しか外で生きられないセミにとっては、春や秋(もちろん冬も)を知りません。そして、自分が一生懸命鳴いている季節が、夏であるということさえも知りません。なぜなら、四季を知っている人間が、セミは夏に鳴くことを知っているからである、という意味になります。

曇鸞大師は、セミを通して私たち人間も、仏さまから見れば、短い命をかされておられ、自分で見聞した物が全てだと思ひ込み、物事の本質に気づかず、仏法を聞くことなく虚しく人生を終わっていかないようにと、このお言葉をもってお示しくださいました。

お盆は、一般的にご先祖を供養するための仏事と考えられています。しかし、そうではなく亡きご先祖を「縁として、私自身が浄土に生まれる道、即ち仏法を聞かせていただくことが、何よりも大切なのです。

仏事あれこれ

仏事のQ & A

Q. お水はお供えする？

A. お供えしません

お仏壇に、茶湯器や一般のコップを使って水を供えている方がいます。これはほとんど習慣的なもののように、「毎日欠かしたことがありません」と自慢げにおっしゃるおばあさんもいます。「なぜ水を供えるの？」と聞くと「仏さまものが渴かれるでしょう」とのご返事。

どうも、水を供えるのは「仏さまや亡き人ののを潤すため」と思っているようです。亡き人を思い、その心に触れる行為なのでしょう。しかし、亡き人が生まれた仏さまの浄土には「八功德水（はつくとくすい）」というところでおきの水がふんだんにたたえられてあり、私たちが「水道」の水を差し上げる必要はないのです。さらに、こうした「のどの渇きをいやすため」という行為は「追善」の意味に受けとりがちで、仏さまのお心にはそぐいません。

ですから、浄土真宗では茶湯器やコップを使って「仏さまや亡き人に飲んでいたたく」ような水の供え方はしないのです。お茶も同様のことです。とは言っても「水そのものがいけない」というわけではありません。水は、

私たちの生活に欠かせない貴重な自然の恵みです。この尊い水を仏さまの恵みと味わい、生かされていることへの感謝から仏前に供えるならば、それはりっぱな報謝行でしょう。

そういう報恩の思いからお水を供えるために、華瓶（けびょう）という仏具を用います。仏事には一定の作法があり、ご飯（お仏飯）を供えるにはお茶碗ではなく仏飯器を用いるように、お水を供えるには茶湯器でなく、華瓶を用いるというわけです。

具体的には、華瓶一對に水を入れ、密（しきみ）または青木を生け、上卓に置きます。密を生けるのは香木だからで、つまり香水として供えるのです。仏さまの恵みを清らかな香水にして供えるところに敬いと感謝の心が込められていると言えましょう。

新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

第71回築地本願寺

納涼盆踊り大会

期日 8月1日（水）～4日（土）

時間 19時～21時

会場 築地本願寺 境内

築地銘店会をはじめとするたくさんのお店が軒を連ねる「日本一おいしい盆踊り！」。築地が誇る食べ物を飲んで！日本の台所築地で開催する盆踊りに是非お出かけください。

平成30年の年回表

（ご法要のお申し込みをお忘れなく）

平成30年 年回表	
1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
25回忌	平成6年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年

7月行事の様子

★境内清掃 6月30日(土) 9時～11時

例年より大幅に早く梅雨が明け、酷暑の中、境内清掃を行いました。
境内の草取りを中心に行い、12名の皆さまにお手伝いいただきました。

お手伝いの皆さま

北川 康雄様 神谷 正弘様
大嶋 弘様 山下 肇様
才野 康雄様 熊谷 武様
神谷 玲子様 大嶋 貢子様
西 ユリ子様 高田 テルハ様
有坂 健様 安邊 璃音様

ありがとうございました。



本当に暑い中お手伝いの皆さまには、境内をきれいに
していただきました。

★常例法座 7月8日(日) 13時～15時

正信偈を皆さまと一緒に勤めし、ご講師・柏倉学法師よりご法話をいただき、
21名の方が参拝されました。

勤行「正信偈」



柏倉学法師



7月の誕生日の皆さま



前回は新婚ホヤホヤでしたが、今回はお子さまがご誕生
され、ますます充実したご法話をいただきました。



7月28～29日に開催予定の
キッズサンガー泊サマースクール
は、台風12号の接近に伴い安全
面を考慮し、中止いたしました。
参加者の皆さまにおかれまして
は、残念に思われたことと存じます。
我が家の長女もひどく落ち込みま
したので、一人サマースクールを
ささやかに行いました。

サマースクール中止

東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 8月の行事予定

盂蘭盆会・永代経法要 納涼懇親会

ご講師 松本 智量師
(東京都 延立寺)



8月12日(日) 午後1時～

お盆の法要に合わせ、永代経法要も勤めます。
過去帳をお持ちの方は、ご持参ください。
懇親会も行いますので、是非ご参加ください。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

8月16日(木) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

▶ 9月の行事予定

境内清掃

境内の草取りを中心に行います。
ご協力よろしくお願いたします。
※雨天時は中止となります。

9月8日(土) 午前9時～

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日(火)

今年で38回目となる追悼法要です。
平和への思いを新たにいたしましょう。
千鳥ヶ淵戦没者墓苑にてお勤めされます。

秋季彼岸会

ご講師 毛利 祥真師
(神奈川県 立徳寺)



9月23日(日) 午後1時～

どうぞ、お気軽にお参りください。

東久留米会館会報 「ともしび」
第268号
発行日 2018年8月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話番号 042-474-6787

編集後記

先日、いところが築地本願寺で結婚式を挙げ、私は司婚者としてお勤めしました。厳かな雰囲気の中、結婚式が挙行され、私自身も良い経験になりました。(安)

お晨朝お休みのお知らせ

8月9日(木)・10日(金)
22日(水)・23日(木)・24日(金)
お休みさせていただきます。

今月のお仏飯米のご進納

山下 肇様 高橋 操様
神谷 正弘様 (トマトジュース)
石田 和美様 (清酒)
ありがとうございました。